



福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

1. 福島第一原子力発電所の現状

東日本大震災から、約2年半が経とうとしています。震災によって大事故となった福島第一原子力発電所では、本年11月より、4号機で冷却保存されている使用済み核燃料棒の取り出しを開始する予定となっています。

使用済み核燃料棒から放出される中性子線は、水によって大幅に減衰されるので、深くて大きなプールで冷却保存されています。燃料棒は冷却せずに放置すれば、たちまち摂氏2000度あまりに上昇します。

燃料棒の表面を覆う被覆管が溶ければ、核物質そのものが放出する状態となるのです。つまり半減期が極端に長い「核物質そのもの」（核反応によって作られる物質とは異なる）が、水蒸

気と混じって外部に拡散する可能性があるのです。

これらを取り出さない限り、原子炉施設を解体し、放射性廃棄物の処理・処分はできません。

汚染水が湾内に漏れ出ていたとの報道は福島県内では報じられ、また3号機から白煙が出ていることなども地域のニュースにはなりますが、全国に報じられることは限られています。参議院選挙後に東京電力が汚染水が海に漏れていたことを公に謝罪しました。

国政に関わる重要な選挙の前後でさえ、このような情報はほとんど全国報道されることはありませんでした。私たちは、人々の関心が薄れることも怖いと感じています。

2. 健康手帳を卒園生に

放射能による健康への影響については不明な事が多い中、これまでの病歴や検査結果を長期的に記録していくことが求められています。18歳で卒園し、独り立ちした子どもたちが、将来医療機関を受診する必要がある場合でも、これらの情報が役立つ可能性もあります。

様々な事情によって、入所している子どもたちの健康状態を、施設がすべて把握しているわけではありません。中には母子手帳も持たない子どももいます。そのような子どもたちのために、施設で把握している健康に関する情報を「健康手帳」にまとめ、卒園時に渡すプロジェクトをはじめました。

健康手帳の原案は、2施設の看護師や園長先生・職員の皆様からいただいた意見を基に作成しました。ヒアリング調査と修正を重ねた初版は、卒園する子どもたちに健康手帳の重要性をわかってもらえるようにと思いを含めて、ノートカバー及びシールデコレー

ション等で装丁を工夫しました。これまでの尿中セシウム検査や甲状腺エコーの結果などの記入欄も設けた、本会オリジナルの健康手帳となっています（写真）。

この健康手帳には、母子手帳と同様に「健康に関する重要な個人情報」が記載されています。紛失時などの個人情報の洩れ等について議論を重ね、どのような情報をどこまで記入するかは、子どもの性格・発達なども考慮して、園長先生に決めていただくこととしました。本年3月には2施設の卒園児6名に各施設の看護師が各個人の情報をまとめて記載した上で、健康手帳の説明をしつつ手渡しました。そして、うち1名は、自分で必要な情報を記入してもらいました。今年度は、活用方法等についてさらにヒアリング調査を実施し、改訂版と同時に健康手帳の電子化を実施する準備をしています。



卒園生のための健康手帳
長期使用にたえられるよう、ノートカバーをかけました

目次:

1. 福島第一原子力発電の現状
2. 健康手帳を卒園生に
3. 栄養勉強会を開催しました
4. 甲状腺エコー検査
5. 被曝低減の必要性
6. 表面汚染測定器を購入
7. 本会の活動報告をしました
8. 会費納入・寄付・未使用切手
寄付感謝
9. 助成金

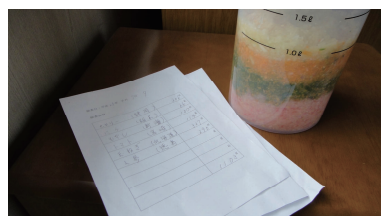
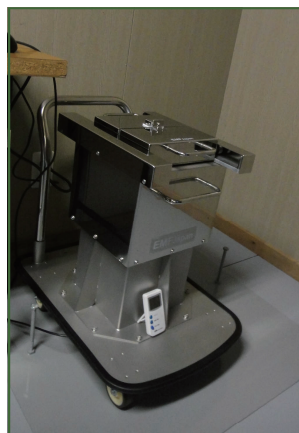
1

2

3

4

3. 栄養勉強会を開催しました



上：食品放射能測定器
下：測定にあたって細かく刻んだ食材と記録用紙 各施設で試行錯誤が続いています



上：外部被曝線量測定“クイクセルパッチ”、これで個人線量を測定
下：累積線量を測定するポケット線量計と記録用紙。これで小舎毎の測定

本会では甲状腺エコー検査のほかに、ポケット線量計による小舎毎の外部被曝のモニタリング、クイクセルパッチによる個人線量(外部被曝のモニタリング)の測定、尿検査(内部被曝モニタリング)の検査も行っています

食品等から体内に取り込まれた放射性物質は、腸管から吸収され全身を巡ります。一部は尿や便と一緒に排出されますが、体内に留まる限り放射線を出し続け、細胞を傷つけることが知られています。そこで、放射性物質をできるだけ取り込まないように、食品に含まれる食品放射能測定器で食材を検査することを推奨しています。

福島県「児童福祉施設等給食検査体制整備事業」により「食品放射能測定器」「検査要員費」「給食用食材の代金」が補助され、各児童養護施設で食品中のセシウム量の測定をすることができるようになりました。

しかし、高度な精密機械である測定器の使用にあたっては、さまざまな注意が必要です。例えば、測定器を空間線量の影響を受けにくい場所に設置するために事前調査を行ったうえで設置場所を決めたり、設置後の測定精度を保つために室温管理のための空調が必要となります。これまでに青葉学園、新たに福島愛育園、堀川愛生園の食品放射能測定室を日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に寄贈して頂き「地球と暮らしを考える会・高山」に

いわき育英舎の測定室内装工事を支援して頂きました。

空間線量が設置推奨環境(食品放射能測定器の設置条件は毎時0.08 μ SV以下が望ましい)よりも高い地域にある施設では、推奨環境に近づけるための環境整備が必要となります。このような環境を整えるために、鶴田くに奨学基金 beyond Xプロジェクトからの寄附で内装の補強工事などを行っています。

内部被曝予防のための食品検査は食品放射能測定器があれば良いというものではなく、正確に測定するには放射能のエネルギーの性質などの専門知識が求められます。また、食事時間や調理の段取りに合わせて誰がいつ測定するのかなど、様々なノウハウの蓄積が必要です。各施設の状況に合った取り組みが行われており、その内容を、他の施設と共有することでよりよい方法を考案する段階です。

本会では7月8日に栄養士、食品検査者をはじめとする職員の方々と共に、第1回栄養勉強会を、フクシマススムファンドの助成により福島愛育園にて開催しました。今後も施設の方々と勉強会を継続していきます。

4. 甲状腺エコー検査(小澤道子プロジェクト)

2013年6月5日に『第11回「県民健康管理調査」検討委員会』が福島県で開催され、本年3月31日現在の甲状腺エコー検査の実施状況について、発表されています。それによると、5.0mm以下の結節や20.0mm以下のう胞を認めた者の割合は、平成23年度35.5%(14,427人)から、平成24年度は44.6%(59,746人)となっています。平成23・24年あわせて「悪性」「悪性疑い」28人。うち13名(良性結節1名、乳頭癌12名)が治療を受けています。

甲状腺エコー検査は住民票を基に実施されています。児童養護施設の子どもたちは、県の措置により住民票を施設住所へ移さずに入所しているため、甲状腺エコー検査の通知が児童養護施設に届きません。結果として検査を受けることができていない多数の子どもがいます。

本会は、超音波診断装置購入のための指定寄付を頂くことができました。

そこでボランティア医師・検査技師のご協力により検査を実施しています。

震災後に入所してきた子どもの中には、措置前も措置後も県民健康管理調査での検査を受けられない子どもがいます。このような子どもには早急に検査が必要と考えています。

検査実施に当たっては、発達障がい等の問題がある子どもへの負担を考慮して、通院ではなく園内で行っています。様々な配慮や工夫が必要ですが、施設の先生方と協力しながら、リスクの高い子どもたちの発見と、継続してフォローする計画を立案しています。

本会、施設長、看護師が市議会議員や県民健康管理センターへ何回も働きかけ、ようやく「なるべく早く対処します」と管理センターが動き始めました。

本会では、まず検査未実施の子どもたちが検査を受けられるようにすること、検査データによって、必要となる治療や再検査が受けられるようにすることを目指します。

5. 被曝低減の必要性

今年の福島は4月21日まで雪が降り、桜の上に雪が積もりました。セシウム134は半減期を過ぎて事故後から1/2以下の量になっていますが、空間線量はわずかに高まる現象がありました。これは耕作を開始して、土に付着したセシウムが空中に舞っているためと言われています。

施設職員や子どもたちのつけているクイクセルバッチ（個人線量計）も、4月5月はやや上昇傾向で6月に下がっていました。

セシウムの空中拡散の仕方は未だに解明されていない事項は多く、空間線量は一定ではありません。限局的に高い放射線量を示す地域・場所はホットスポットと呼ばれ、空間線量が低い地域にも点在しています。通学路や遊び場での被曝の危険性があるのです。公的除染から1年経った施設ではホットスポットが見つかり、広域なボランティアによる除染を複数回にわたり行っています。



上・下左 表面汚染計測器
下右：シンチレーション式
サーベーター

6. 表面汚染計測器を購入しました

放射線には α 、 β 、 γ 線など、複数の種類があります。「ガイガーカウンター」や「シンチレーション式サーベーター」とは、主に γ 線を計測するものです。表面汚染計測器は、 α 線、 β 線、 γ 線の計数率(cpm)を測定できます。特定の場所について、より正確な放射線量を測定できるのが表面汚染計測器です。比較的安価であり、多くの災害救援団体が使用しているのがガイガーカウンターですが、この数値のみでは子どもたちの生活範囲にあるホットスポットを見逃すこともあります。

地球と暮らしを考える会と川原啓美医師の指定寄付により、本会ではシンチレーション式サーベーターと表面汚染計測器（右上写真）を購入することができました。2種類の計測器を用いて児童養護施設や周辺地域を計測しています。客観的な数字で汚染の状況を把握することは、とても大切と感じています。2つのエピソードをご紹介します。

その①B園でシンチレーション式サーベーターでの空間線量はそれほど高くなかった場所を、表面汚染計測器*で計測を行ったところ、石油タンクとその防油堤のコンクリート塀が汚染されていることがわかりました。そこで、この塀の建て替え工事の助成先の申請を行いました。

その②C園で、文部科学省が設置したモニタリングポストでは毎時0.2 μ SV以下を示していましたが、その近くをガイガーカウンター*で計測したところ、毎時0.2 μ SVを示すことが多くありました。職員がポケット線量計をつけて測定すると1日4 μ SVになりました。子どもたちの被曝量をできる限り少なくするために、避ける必要がある場所をはっきりさせることができました。

*児童養護施設が、全国児童養護施設協議会「東日本大震災被災地支援金」により購入したものです



帽子・マスク・ゴーグル・グローブで防護しながら計測中

7. 本会の活動を報告しました

愛知国際病院 ぶどうの会(5月23日)、名古屋YWCA(5月24日)と、JOCSの総会(6月1日)にて報告の時間を頂きました。日本小児看護学会で

は、ニュースレター第42号に震災支援事業助成採択者からの報告として掲載され、7月13・14日開催の学術集会以てポスター報告いたしました。





福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田和美（元武蔵野大学看護学部 教授）
丸 光恵（東京医科歯科大学 国際看護開発学 教授）
副代表 塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）

ホームページもご覧ください<http://www.fukujidou.org>

事務所住所・連絡先

〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5
メゾンオープンC203
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp
電話・FAX: 024-573-2939

♡略称をICA福子（いかふくこ）にしました
Foster Care for
Infants, Children and Adolescents
in FUKUSHIMA

ご支援先

♡ゆうちょ銀行

店名：二二九店（店番号229）
種類：当座預金
番号：02220-2-118684
名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

♡大東銀行

店名：福島西支店（店番号047）
種類：普通預金
番号：1303901
名称：福児童 代表 澤田和美

♡三井住友銀行

店名：白山支店
種類：普通
番号：6854164
名称：福児童 代表 澤田和美

本会は様々な団体の助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、引き続きご支援をお願い申し上げます。未使用切手によるご支援も大歓迎です。今後も福島県の児童養護施設の子どもたちの健康について、お心にとめていただければ幸いです。

8. 会費の納入および寄付・未使用切手等のご寄附を頂きました 感謝申し上げます

（2013年3月21日～7月26日迄にご寄附を頂きました 順不同・敬称略）

母と子を守る会 榛木恵子 小林好美子 小澤英輔 細谷たき子 永田耕治 鈴見郁子 高柳允子
IAIDOKAI（代表 John Görmann） 馬場隆 山崎真由美 名取智子 入江芽吹 穴沢良子
別宮千織 小尾尚子 田中とよ美 原岡潔 松浦英美 立川洪介 立川満里 秋山道子 太田信吉
太田智恵子 太田一道 太田晃野 太田あかり 太田和晃 太田愛智 大野満男 戸谷弘彦 立川明朗 杉村太郎
諏訪恵子 石原真木子 石原昌子 永島敦子 糸柳尚子 数間恵子 立山恭子 吉田妙子 河嶋弥栄子
丸森あや 臼井美帆子 坂牧実 松岡恵 蝦名美智子 金子みどり 池口佳子 舛岡泉 山本恭子
塩飽仁 下落合教会 鈴木幹子 長畑左樹子 棚橋正明 小松美智子 松平信子 加島春来・美枝 伊藤良子
原瀬昌久 渡辺めぐみ 犬塚茂生 柳澤千恵子 ぶどうの会 川原啓美 名古屋YWCA 澤田稔・保子
中島隆宏・祐子 丸光恵 大畑美和子 山崎慶子 中山洋子 大垣一 井手初穂 守屋正子 榎本真理子
遠藤優子 大西秋奈 木村千春 村川佳代 志賀由美 名古屋東教会 齋藤泰子 池田むつみ 今泉郷子
武井めぐみ 高橋明男 ICU高校キリスト教活動委員会 串原ささゆりクラブ へるす出版“小児看護” 匿名

9. 本会の活動に対して下記の団体の助成金を頂きました

○日蓮宗 あんのん基金

放射線対策コンクリート基礎取替工事

<http://www.nichiren.or.jp/annon/20130204-131/>

○鶴田くに奨学基金beyond Xプロジェクト

食品放射能測定室の補強配送工事

○フクシマススムファンド

健康手帳作成事業・放射線に関する教育事業・児童養護施設専門職の集い・市民への啓発事業

<http://fukushima-susumu.jp/houkoku>

○日本小児看護学会 災害支援助成金

①健康手帳プロジェクト ②看護師交流プロジェクト

○公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会

①会計業務のスーパーバイズ、及び帳簿管理の助言 ②児童養護施設3施設（青葉学園、堀川愛生園、福島

愛育園）の食品放射能測定室を設置するための測定室の建築資金 ③職員及び児童のクイクセルバッチ装着費用

④甲状腺エコー検査実施時のボランティア医師の交通費、宿泊費、ボランティア保険の費用